

事例①（佐渡市教育委員会の研修会）

- 研修名：地域とともにある学校づくり運営研修会
- 目的：地域と学校の連携・協働が更に深まることを目指して、地域コーディネーターの役割を学び、地域とともにある学校づくりを進めるための研修の機会とする。
- 主催者：佐渡市教育委員会 社会教育課
- 開催日時：令和5年5月30日（火）
13時30分～16時30分
- 会場：佐渡島開発総合センター 3階 大集会室
- 講義：子どもを育む「縁」を結ぶ
～コーディネーターの役割について～
- 講師：全国体験活動ボランティア活動
総合推進センター
コーディネーター 興柁 寛 氏
- 受講対象者：地域コーディネーター、小中学校教職員
- 参加者数：49名
- 研修内容：



講義

- ◎つながり、つなぎ、分かち合う生活へ
- ◎人と人、人とコミュニティの「縁」を結ぶ
- ◎コーディネーターの6つの役割
 - ①たがやす ②つなぐ ③ひろげる ④そだてる ⑤しらべる ⑥しらせる
- ◎コーディネーター研修でスキルアップしよう
 - ・コーディネーターの感性を活かす
 - ・ロールプレイで深めるケース研究
 - ・多彩なプログラムメニューを開発する
 - ・他の地域のコーディネート現場を訪問
- ◎2つの実践事例から考える
- ◎ボランティア学習のすすめ
- ◎無限に広がる公民館の可能性
- ◎“縁結び人”になろう

<主な感想等>

- 興柁先生のお話は、地域コーディネーターとして活動する上で大変勉強になりました。
- 講演の内容が、実際の活動に基づいた内容でとても勉強になりました。

- 地域コーディネーターの仕事や地域を巻き込んだ学校運営について実践例をまじえてもらいながら説明していただきました。学校で伝達し、地域とうまく連携していきたいです。
- 学校とCSディレクターとの連携だけでなく、行政に働きかけることで労力少なくして活性化する取組を紹介していただき、大変参考になりました。
- ボランティアルーム的なものが学校内に設置され、情報の共有や依頼などがスムーズに行われると良いと思いました。交換ノートもできることの一つだと思いました。年間カレンダーは「見える化」という意味で有効な手段だと感じました。やれることからやっていきたいと思いました。
- 地域連携協働活動がねらい通りに機能すれば、地域と学校の課題を解決できる可能性があると思いました。

事例②（栃木県総合教育センターの研修会）

- 研修名**：地域学校協働活動推進員養成研修・学校と地域の連携推進セミナー
- 目的**：
 - ・地域学校協働活動推進員としての資質向上を目指して、学校と地域の連携・協働の在り方について理解し、学校と地域のコーディネートに必要な知識・スキルを身につける（地域学校協働活動推進員養成研修）
 - ・学校と地域が連携・協働した活動に携わる際に必要な知識や技術の習得を目指し地域とともにある学校づくりと学校を核とした地域づくりの双方の視点から学ぶ（学校と地域の連携推進セミナー）
- 主催者**：栃木県総合教育センター 生涯学習部
- 開催日時**：令和5年6月16日（金）
12時30分～15時30分
- 会場**：栃木県総合教育センター
- 講義**：地域と学校の連携・協働の必要性
～地域の未来をつくるのは子どもたち、
子どもたちを地域の力で育てよう！～
- 講師**：全国体験活動ボランティア活動
総合推進センター
コーディネーター 大坪 直子 氏
- 受講対象者**：地域学校協働活動推進員委嘱予定者等各市町から推薦を得た方
地域コーディネーター等の経験者
学校と地域の連携活動や地域で子どもを育む活動に携わる方
県・市町の社会教育関係職員
- 参加者数**：38名
- 研修内容**：
 - 講義
 - ◎地域と学校が連携・協働すること
地域学校協働活動について
 - ◎地域学校協働活動の実践として
 - ◎推進員（コーディネーター）の活動
推進員・コーディネーターの役割
ボランティア人材（人財）の活動
ボランティアをどう集めるか
社会教育機関としての公民館等の役割と連携の方法
ボランティアにはどのように協力してもらうか
 - ◎活動事例



<主な感想等>

- ボランティア活動を（コーディネート）する上で、活動そのものだけでなく活動を通したつながり作りをしていきたい。
- 「放課後あそび隊」の活動事例紹介がとても参考になった。民生委員さんと協働・協力して実行に移したい。
- 中学校のカリキュラムの中に地域が入って活動するアイデアを参考してみたい。
- 自分達のできることに少しずつプラスしていけたら…と（今後の活動が）楽しみになった。
- 地域の方をボランティアとして登録しておく仕組みがあるとさらに心強いと思った。
- 振り返りの時間に隣席の方（コーディネーターとしての経験が豊富）と話ができとても参考になった。
- 情報発信やそのスキルの大切さ・必要性を実感した。（自身も活動参加のきっかけは「学校便り」）
- 「地域のこと＝行政の役目」ではなく、地域の人々自らが考え、作るのお話は気づきだった。

事例③（三重県教育委員会の研修会）

- 研修名：令和5年度第1回地域学校協働活動推進のためのコーディネーター養成講座
- 目的：学校と連携・協働して地域を創生する「地域学校協働活動」の中核を担う地域学校協働活動推進のためのコーディネーターの育成を図ることをねらいとする。
- 主催者：三重県教育委員会
- 開催日時：令和5年8月4日（金）
13時00分～16時30分
- 会場：三重県教育文化会館 5階 大会議室
- 講義：情報の提供・発信に関する知識・技術／
コーディネートの技法
- 講師：全国体験活動ボランティア活動
総合推進センター
コーディネーター 馬場 祐次朗 氏



- 受講対象者：地域学校協働本部、放課後子ども教室のコーディネーター及び関係者、放課後子ども総合プランの関係者、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の関係者、「子ども支援ネットワークづくり」推進教員、地域連携担当教職員等コーディネーターの役割を担う教職員、社会教育委員、社会教育主事、公民館職員
- 参加者数：64名
- 研修内容：

講義

- ◎地域におけるコーディネーター（地域学校協働活動推進員・支援員等）は、教育（社会教育）に携わる職
- ◎そもそも地域学校協働活動とは
- ◎地域学校協働活動の必要性
- ◎地域と学校・家庭の連携を進める意義
- ◎コーディネーターの育成。確保がカギ
- ◎コーディネーターの役割と求められる資質・能力
- ◎情報を収集・提供・発信する際の留意点
- ◎地域の教育資源の発掘と有効活用
- ◎収集・提供・発信する情報の種類
- ◎地域情報を活用したコーディネート事例

演習

- ワークショップによる研修
「コーディネートの実際を学ぶ」

<主な感想等>

- コーディネーターの役割がよくわからず、名前のみの方が多い。自分がいる団体に正しく伝えたいと思います。また、自分自身もつなぐことに力を注ぎたいです。
- 自分自身が当事者意識をもって、情報収集・発信に努めていきたいと思いました。ウェルビーイングの実現に向けて、地域と学校が連携・協働していくことが大切で、そのためにコーディネーターの果たす役割は大きいと思いました。

○初めての参加でしたが、充実した時間でした。自分一人の満足ではなく、子どもたちに向き合って、子どもたちの主体性を引き出していけるように、活動できたらと思いました。「縁」づくりも素敵な言葉です。言葉どおり進めていけたらと思います。

事例④（奈良市教育委員会の研修会）

- 研修名**：令和5年度第4回奈良市コーディネーター研修（キャリア教育）
- 目的**：コーディネーターを始めとした地域人材が学校と共にキャリア教育を推進するためにどのように連携をしていけばいいのか、自らの役割を自覚することで、キャリア教育への理解を促進することを目的とする。また、地域と学校園が「めざす子ども像」に向かって実践している活動を「キャリア教育の視点でとらえ直す」ことを意識することで、さらに充実した地域学校連携活動につなげる。

- 主催者**：奈良市教育委員会事務局
地域教育課

- 開催日時**：令和5年8月24日（木）
9時30分～11時30分

- 会場**：奈良市役所 中央棟6階 正庁
- 講義**：キャリア教育推進のためのコーディネーターの役割について
「コーディネートの方法とコーディネーターの役割について」

- 講師**：全国体験活動ボランティア活動
総合推進センター
コーディネーター 橋本 洋光氏



- 受講対象者**：コーディネーター、地域学校連携関係者、学校関係者、生涯学習財団職員
- 参加者数**：24名
- 研修内容**：

講義

- ◎平成27年中教審答申～「支援」から「連携・協働」へ～
- ◎子供たちの社会環境の変化（予測困難な社会）と「社会総がかりの対応」
- ◎連携・協働の目的＝子供たちの「生きる力」
- ◎連携・協働の中教審答申の流れ
「開かれた学校づくり」から「社会に開かれた教育課程」へ
- ◎キャリア教育とは（平成23年1月中教審答申）
- ◎コーディネーターの役割
- ◎社会に開かれた教育課程の一つ＝協働的な学び（地域学校協働活動）
- ◎「生きる力」とボランティア活動
- ◎奈良市のキャリア教育の特性
- ◎学校を核とした地域づくり
- ◎コミュニティスクールと地域学校協働活動の連携
- ◎連携・協働で育つ子供像

演習

ワークショップによる研修

<主な感想等>

- コーディネーターについて知識がないので勉強になった。
- 協議会や学校だけではなく、子どもたち、地域の方（保護者や学生や）が主体的に参画できる活動を組立てることの必要性をあらためて感じました。ニーズの把握やマッチング、学校の年間行

事予定や地域の方々の日程のすり合わせなどハードルがいろいろありますが、理想に近づければいいなあと思います。

- 企画段階でもっと子どもたちも参画できる機会を増やしていきたい。今後の事業計画を立てるときの考察材料にしたい。
- 子どもを巻き込み、両親、老人が集うように活動して行動していきたい。
- キャリア教育とボランティア活動との密接な関係について、とても腑に落ちた。公民館職との役割にもかかわる内容だと思い、大変勉強になったので参考にしたい。
- 子どもたちを主体とするのは良いと思う。うちの地域は子どもと大人の距離が近いのでうまくつなげていければと思います。
- 子どもが主体的に活動できる流れを一から見直すきっかけとなった。
- 漠然とボランティアに参加していましたが、今後、相手の立場にたって達成感ややりがいのある活動なんだと知ってもらえるように働きかけていきたい。子どもたちを企画まで巻き込むためのきっかけづくり、各団体・学校とのつながりを大事にしたいと思いました。
- ボランティア・コーディネーターの立場等をあらためて考えさせられました。今後の活動にいかしたいと思います。
- 沢山の参考になるアイデアをもらったので、できる分を参考にしたいです。子どもをいかに巻き込むか、企画から参画してもらう方法を今後考えていきたいと思います。
- 体験活動とボランティア活動の違いがよくわかった。他地域の活動と今日の話参考に、今後の自分の地域の活動の参考にしたい。
- 放課後子ども教室に関わっていく中で、子どもたちがどのように自主的に参加してくれるようになるか（活動に主体的に参加してくれるか）を考え、行動して行こうと思います。
- ボランティアについての話を詳しく聞くことができ、自分が活動に参加する意義を改めて考えることができた。自分自身も勉強していきたい。
- ボランティアとして、大学生も期待できるとのお話もありましたが、校区内には県立大学附属高校があり、高校生が放課後子ども教室のラジオ体操に来てくれたり、地域のまつり、高齢者サロン、未就園児のひろば等に参加してくれます。中には、小学校の卒業生もいてくれました。子どもたちが身近な高校生ボランティアの姿をみて「自分たちも！」と思ってくれたら。県立大付属高校も地域の財産ですので今後も続けられたら。
- 活動をまだ始めただけで、グループの人たちの活動内容を聞かせていただきパワーをもらいました。富雄南中学校区では、まつりや防災など子どもたちがボランティアとして活動している姿を見ていましたが、年間活動計画の中にも、子どもたちの意見（アンケート等を通して）を組み入れられたらいいなあと思いました。
- ボランティアが意図されていることが自分の認識以上の知識学びました。
- 他者へ自分を投げ入れる勇気からボランティアが始まり、生きる力につながるというお話がとて

も良かった。

- 活動するにあたって、子どもたちを参画させるという事を考え、今後に生かしていきたい。ボランティア活動の概念があらためて学ぶことができた。地域のボランティアを集めることが難しいが、地域人材の発掘も含めて、学生たちの参加をうながせる事を考え、地域の情報交換の場に参加していこうと思う。
- 子どもたちのボランティア活動をもっと進めていきたいと思った。
- 他地域との交流を通して自身がアップデートしていくことが大切だなと感じました。
- 地域を巻き込んだ各種団体とのつきあいを深く持つて行くことが、今後の活動につながるのでは。
- 子どもを主体としてする場合、大人が時間がとれないかもしれないのが難しいです。
- 小中学校の連携について、学校、地域それぞれの状況についての研修があればいいなと思いました。
- 先生のお話は2回シリーズでもっとゆっくりお聞きしたかったです。
- ボランティアを募集するための広報紙、チラシ（効果的な）の作り方の研修があれば参加したい。
- もう少し自分に知識があればと思うばかりです。時間を調整し、参加していきたいと思いました。
- 本日のような研修内容はとてもよかったです。

事例⑤（八王子市教育委員会の研修会）

- 研修名**：学校運営協議会委員・地域学校協働活動推進員（学校コーディネーター）合同研修会
- 目的**：相互の役割・活動について理解を深め、学校運営の改善及び学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進につなげる。
- 主催者**：八王子市教育委員会
- 開催日時**：令和5年12月10日（日）
10時～12時
- 会場**：八王子市教育センター 3階 大会議室
- 講義**：学校運営協議会と地域学校協働活動の
両輪体制について
- 講師**：全国体験活動ボランティア活動
総合推進センター
コーディネーター 山本 裕一 氏
- 受講対象者**：学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、学校管理職
- 参加人数**：126名
- 研修内容**：



講義

◎コミュニティー・スクールの現状と組織の意義

- ・学校の教育目標が社会と共有されていないならば、連携・協働も生まれない
- ・何のために目標を共有するのか
- ・当事者意識は育っているのか

◎学校運営協議会委員と地域学校協働活動推進員のあるべき姿について

- ・「社会に開かれた教育課程」の実現
(コミュニティー・スクールの有効性)
- ・私たちは“学習する組織”（子供の学びを考える大人の集団）であるということ
- ・学習する組織の難しさ
アンラーニング、メンタル・モデル、成功の罫
シングル・ループ学習／ダブル・ループ学習

演習

ワークショップによる研修

<主な感想等>

- 例題を提供され、その問題点を話し合う事がとても良かったです。
- 学校運営協議会の役割、地域学校協働活動推進員の役割が良く分かりました。
- コミュニティー・スクールの必要性を改めて認識できました。
- アンラーニング、メンタル・モデル等々ふと立ち止まって考えを再確認する必要性を実感しました。
- 学校・地域・子どもたちの為に、これからも「子どもファースト」で「コミュニケーション」を大切にして、学校運営協議会をより充実した組織にしていきます。「子どもの学び」を考え

る大人の集団でありたいと心から思いました。

- 学校運営協議会の委員として、地域学校協働活動推進員として、何をしていったらいいのか良く分かる研修会でした。
- ダブル・ループできるような地域学校協働活動推進員になることが、子どもや家庭や学校を支える根本だと改めて感じました。
- 山本先生の進行がちょうど良い時間配分で進められ、講義や発表が入り、休憩が無くてもあっという間の二時間でした。
- 地域学校協働活動推進員は学校運営協議会で出た課題を地域におろして解決策を考える役目があることも分かったので、地域と学校を繋げられるよう務めていきたいと思います。
- 大変ためになる講義と熱いメンバーとのグループワークで楽しく学習させていただきました。